

植物防疫所における JPP-NET の利用状況

JPP-NET(植物防疫情報総合ネットワークシステム)は、病虫害発生予察情報、全国の気象情報、農薬登録情報等の提供及び会員間での情報交換等、植物防疫情報が幅広く利用できるパソコン通信ネットワークシステムである。本システムは平成9年度から運用が開始され、農林水産省及び同省の各関係機関、都道府県の植物防疫関係機関等で利用されている。

植物防疫所では、JPP-NETの「データベースページ」の中に植物防疫所「病虫害情報」のバックナンバー(No.1~No.55)を入力しており、各号別・項目別等様々な方法で検索でき、簡単に閲覧することができるようになっている。

また、インターネット上に「植物防疫所ホームページ」を開設し、植物防疫所の業務概要を図表

・カラー写真等で紹介しており、本ネットワークからもアクセスすることができる。

この中には海外旅行者のための情報として「主な輸入禁止植物」や「輸出国での栽培地検査が必要な植物」を一覧表にして、また、南西諸島の一部に発生している病虫害の国内での移動規制内容を紹介している。例えば、国内の移動規制内容については沖縄・奄美・小笠原に発生しているアリモドキゾウムシ・イモゾウムシ等の写真を掲載し、当該虫の寄主植物となっているサツマイモやアサガオ属植物等の持ち出しが規制されていることなどが紹介されている。

※ホームページアドレスは

<http://www.jppn.or.jp/yokohama/>

海外のニュース

アジア系統マイマイガの米国への侵入

マイマイガ *Lymantria dispar* (L.) はブランコケムシまたは Gypsy moth と呼ばれ、寄主範囲は極めて広く、300種以上とも言われている。北米では森林に壊滅的な打撃を与える森林害虫として注目されている。現在、北アフリカ、ヨーロッパ、アジア、北アメリカに広く分布しているが、北米には1860年代にフランスから人為的に持ちこまれた。

本種は、行動や生態が地理的個体群の間において異なることが知られており、アジア系統の成虫は雌雄ともに飛翔することができるが、ヨーロッパと北米のものは雄しか飛翔することができない。また、アジア系統の幼虫はヨーロッパや北米のものに比べて、より広い範囲の植物を加害するなど、分布拡大や生存に関してより有利な特徴を備えている。

このアジア系統が、近年ヨーロッパや北米に国際貿易や軍用貨物の輸送とともに侵入した。1991年にはカナダとアメリカ合衆国の西海岸に極東ロシアから侵入した。一方、ドイツ南西部からも発見されている。

マイマイガの性フェロモンは既に合成されてお

り、これを使ったトラップによって雄成虫を誘引することができ、調査には非常に役立っている。しかし、外見上容易にはアジア系統を識別できないため、雄の前翅の翅脈を用いた方法により、大量のサンプルを効率的に識別できる方法が米国において開発された。この方法によってアジア系統であるとされたものに対して、さらに分子生物学的な解析による精密な判定を行い、発生範囲の調査が行われている。

このように、米国では、在来の系統に比べてより甚大な被害が予想されるアジア系統の分布拡大を重視し、農務省、州等の関係機関が共同で、発生範囲の調査及び根絶のためのプログラムの開発を行っている一方、マイマイガについて多方面にわたる基礎的な研究や調査、防除方法の開発などが各地で行われている。

発行所	横浜植物防疫所
	〒221-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎 ☎(045) 211-7155
発行人	小林 敏 郎
編集責任者	今 村 毅
印刷所	内村印刷株式会社